

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 61-219692

(43)Date of publication of application : 30.09.1986

(51)Int.Cl.

B41M 5/26

C22C 5/02

G11B 7/24

(21)Application number : 60-061137

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO
LTD

(22)Date of filing : 26.03.1985

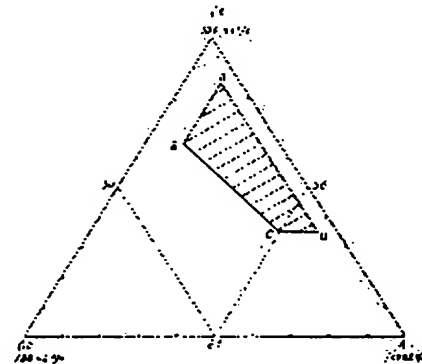
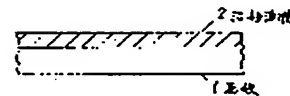
(72)Inventor : ONO EIJI
KIMURA KUNIO
SANAI SUSUMU
YAMADA NOBORU

(54) OPTICAL INFORMATION-RECORDING MEMBER

(57)Abstract:

PURPOSE: To contrive stability and rapid crystallization and enable rewriting, by providing a thin recording film comprising Te, Ge and Au as essential elements in which the ratio of the number of atoms of the elements is in a specified range.

CONSTITUTION: To obtain the thin recording film, Au having the function of enhancing the rate of crystallization is added to a thin Te-Ge film containing not more than about 40at% of Ge and stable as an amorphous substance while restricting the compositional ratio of Te, Ge and Au to within a region A-B-C-D. An optical disk having the thin recording film with the compositional ratio in the region has optically sufficient sensitivity in recording and erasing signals as well as high C/N. Further, moisture resistance is enhanced by adding O to the film, the amount of O added being preferably not more than 30at%. The composition of the thin recording film 2 vapor-deposited on a substrate 1 is controlled by electron beams, the rate of evaporation from each source is varied for regulating the ratio of the numbers of atoms of Te, Ge, Au, and the operation is carried out while rotating the substrate.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-219692

⑮ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑯ 公開 昭和61年(1986)9月30日

B 41 M 5/26

7447-2H

C 22 C 5/02

7730-4K

G 11 B 7/24

A-8421-5D 審査請求 未請求 発明の数 1 (全9頁)

⑰ 発明の名称 光学情報記録部材

⑱ 特 願 昭60-61137

⑲ 出 願 昭60(1985)3月26日

⑳ 発 明 者	大 野	鋭 二	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
㉑ 発 明 者	木 村	邦 夫	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
㉒ 発 明 者	佐 内	進	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
㉓ 発 明 者	山 田	昇	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
㉔ 出 願 人	松下電器産業株式会社			門真市大字門真1006番地
㉕ 代 理 人	弁理士 中尾 敏男			外1名

明 細 書

1、発明の名称

光学情報記録部材

2、特許請求の範囲

- (1) T₀, G₀, A₀ を必須元素として含み、それらの各元素の原子数の割合が第1図のA, B, C, Dで囲まれた範囲内にある記録薄膜を有することを特徴とする光学情報記録部材。
- (2) 添加物質として酸素Oを含むことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の光学情報記録部材。
- (3) 酸素の添加量が30.1%以下であることを特徴とする特許請求の範囲第2項記載の光学情報記録部材。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明はレーザ光線等を用いて情報信号を高密度かつ高速に光学的に記録再生し、かつ情報の書き換えが可能な光学情報記録部材に関するものである。

従来の技術

レーザ光線を利用して高密度な情報の記録再生を行なう技術は既に公知であり、現在、文書ファイルシステム、静止画ファイルシステム等への応用がさかんに行なわれている。また書き換え可能なタイプの記録システムについても研究開発の事例が報告されつつある。これらは主にT₀のアモルファスと結晶間の状態変化を利用してあり、例えば、比較的強くて短いパルス光を照射し、照射部を昇温状態から急冷してアモルファス状態にすることによりその光学定数を減少させ(白化する)。また、比較的弱くて長いパルス光を照射して結晶状態にすることにより光学定数を増大させる(黒化する)ことで記録消去を行なうというものである。

T₀は室温では結晶として安定であり、アモルファス状態としては存在しない。したがって室温でアモルファス状態で安定に存在させるために、様々な添加物が提案されており、代表的な添加物

の一つとしてG₀が広く知られている。

G₀はT₀-G₀薄膜中においてネットワーク構造を形成する働きがあり、したがって室温でもT₀-G₀薄膜アモルファス状態で安定に存在することができる。

しかし、このT₀-G₀薄膜も光学記録薄膜の観点から大きく二つに分類することができる。すなわちT₀-G₀薄膜は、蒸着法、スパッタリング法等で形成されたときにはほとんど組成範囲においてアモルファスとして安定である。しかしながら、一旦結晶化した後は、比較的強く短いパルス光を照射して照射部を昇温状態から急冷した場合、G₀の濃度が約40at%以下であれば再びアモルファスになるが、約40at%以上ではアモルファスにはもどらず結晶となる。このうち、信号の記録、消去が可能であるのは結晶化部分がレーザ照射により再びアモルファスとなる、G₀濃度が35at%以下のT₀-G₀薄膜であるが、この記録薄膜は、アモルファスとして非常に安定であるため、比較的弱くて長いパルス光を照射して照射

コントラスト比が不十分であるという欠点を有していた。

他方、従来のT₀O_x-Au記録薄膜は黒化速度は十分に速いものの再び白化することは困難であるため、書き換え可能な光ディスクとしては使用できなかった。

本発明はかかる点に鑑みてなされたもので、従来のT₀-G₀薄膜のアモルファスとして非常に安定であるという特徴と、T₀O_x-Au薄膜に見られるような高速に黒化(結晶化)するという特徴を同時に有する書き換え可能な光学情報記録部材を提供するものである。

問題点を解決するための手段

T₀、G₀、Auを必須成分とし、かつその必須成分各元素の原子数の割合が、第1図のA、B、C、Dで囲まれた範囲内に限定された記録薄膜を備える。

作 用

発明者らは、アモルファスとして非常に安定なG₀の含有量が35at%以下のT₀-G₀薄膜の特

性を除熱・除冷しても結晶化速度が遅すぎ、実用には向いていない。

T₀-G₀を主成分とした記録薄膜としては例えばG₀₁₆T₀₈₁Sb₂S₂等があるが(特公昭47-26897号公報)、これは消去感度がまだ不十分であり、かつ、書き込みコントラスト比が不十分である。

一方、本発明者らは、T₀とT₀O₂の混合物であるT₀O_x薄膜にAuを添加することにより、結晶化速度を大幅に改善できるということを明らかにした(特願昭59-61463号公報)。

しかし、このT₀O_x-Au記録薄膜においては、一度黒化させると再び白化させることは困難であり、したがって書き換え可能な記録薄膜としては使用し難い。

発明が解決しようとする問題点

従来のT₀-G₀を主成分とする記録薄膜を有する書き換え可能な光ディスクでは、消去速度が遅くかつ消去感度が不十分であり、加えて、黒化部と白化部の光学定数の差が小さいために書き込み

定組成範囲に適量のAuを添加すると、アモルファスとして非常に安定でありながら、かつ、黒化速度・黒化感度とも非常にすぐれた、光学的に信号の書き換えが可能な記録薄膜となるということを見い出した。

このT₀-G₀-Au記録薄膜中におけるG₀の働きは、アモルファス状態においてT₀あるいはT₀-Au化合物が結晶化しようとする中へはいりこんでネットワーク構造を形成し、アモルファス状態(信号の記録ビット)を安定に保つものであると考えられる。

またAuの働きは、消去時にT₀-AuあるいはG₀-Auというような何らかの化合物を形成することにより、結晶成長を促進する結晶核のようなものになると考えられ、したがってG₀を含む記録薄膜でさえも十分な消去速度、消去感度が得られると考えられる。

実施例

T₀-G₀薄膜に比較的強く短いパルス光を照射して照射部を昇温状態から急冷した場合にけ

る、G₀濃度の違いによる照射部の状態変化の違いは以下のように考えられる。

つまり、G₀濃度が約40 at%以下の、レーザ光照射後も再びアモルファスとなる範囲では、レーザ光照射後の冷却時にT₀が六方晶の針状結晶を形成しようとする中へG₀がはいりこんでネットワーク構造を形成するため、T₀の結晶成長がさまたげられていると考えられる。

しかし、G₀濃度が約40 at%以上の、レーザ光を照射後はアモルファスにもどらず結晶となる範囲では、レーザ光照射後の冷却時にT₀G₀の結晶が析出し、このT₀G₀の結晶は立方晶であるため容易に粒成長が可能であり、したがってレーザ光照射時程度の冷却速度ではアモルファスにはならない結晶となってしまうものと考えられる。

このうちG₀濃度が約40 at%以下のT₀-G₀薄膜は、比較的弱くてかつ十分に長いパルス光を照射して照射部を除熱・除冷してやれば結晶化するものの、アモルファスとして非常に安定であるため結晶化速度が遅く、かつ、結晶成長が不十分

であるためアモルファス状態と結晶状態間の光学定数変化が小さく、書き込みコントラスト比が不十分であり、実用には向いていない。

また、T₀とT₀O₂の混合物であるT₀O_x薄膜にAuを添加することにより、結晶化速度が大幅に改善されることが明かにされているが、これはT₀O_x-Au薄膜にレーザ光を照射した場合の冷却時にAuがT₀-Auという何らかの化合物を形成し、T₀が結晶化するための一種の結晶核のような働きをするものと考えられる。

このT₀O_x-Au記録薄膜は一度黒化させると再び白化させることは困難であるため、書き換え可能な記録薄膜としては使用できない。

本発明による記録薄膜は上記事実に基づき考案されたもので、G₀濃度が約40 at%以下のアモルファスとして安定なT₀-G₀薄膜に結晶化速度を向上させるAuを添加した記録薄膜であり、かつ、各元素の原子数の割合を制限することによって、アモルファスとして非常に安定でありながら、結晶化時には結晶化速度が十分に大きい、すなわ

ち、信号の記録、消去がレーザ光により十分実用可能な光学情報記録薄膜を提供するものである。

さらに、T₀-G₀薄膜にAuを添加したことにより、記録薄膜の透過率の低下が起こり、記録薄膜における光の吸収率が上昇して高感度となる。また高速に結晶化が完了するために、結晶化が十分に進み、したがって、アモルファスと結晶との光学定数の差が大きくなり、信号書き込み時のコントラスト比が大きくなって、大きなC/Nが得られる。

次に本発明において記録薄膜中の各元素の原子数の割合を限定した理由について述べる(具体的な数値を決定した根拠は後述の「実施例2~8」において詳しく説明する。)。

構成元素のうちT₀はレーザ光照射による加熱、急冷によってアモルファスとなり、除熱・除冷によって結晶となる。すなわちT₀の相変態による反射率変化によって信号の記録、消去が行なわれるわけであり、第1図の直線CDよりT₀の少ない領域ではT₀の量が少なすぎて十分な反射率変

化が得られず、大きなC/Nを得ることはできない。

また、直線ABよりAuの少ない領域では、Auの添加効果が十分でない、すなわち結晶化速度があまり改善されない領域であり、信号の消去速度の大幅な向上は期待できない。

逆に直線DAよりG₀の少ない領域は、G₀の添加効果が十分でなくアモルファスとして不安定な領域である。すなわち、記録薄膜が室温中で容易に結晶化するか、あるいは、加熱・急冷用レーザ光(白化用レーザ光)を照射してもアモルファスとはならず結晶化してしまう領域である。

また、直線BCよりG₀の多い領域はG₀T₀に近い組成にAuを添加した領域であって、G₀T₀はアモルファスとして非常に安定であるためいかなる量のAuを添加しても結晶化速度の改善度合が小さく実用的でない。

以上がT₀、G₀、及びAuについてその組成比を第1図のA、B、C、Dで囲まれた領域に限定した理由である。この領域にある記録薄膜を有する光ディスクは、実用上十分な信号の記録、消去

感度と高いC/Nを有している。

なお、第1図におけるA, B, C, Dの各点の座標を以下に示す。

(T₀, G₀, Au) at%

A: (85, 5, 10)

B: (65, 25, 10)

C: (35, 15, 50)

D: (35, 5, 80)

さらに、第1図のA, B, C, Dで囲まれた領域にある記録薄膜にOを添加することによって、耐湿性が向上することが認められる。

前記記録薄膜の劣化機構の1つとして、水蒸気の下でT₀, G₀が酸化されるということがあげられるが、OをT₀O₂として添加することにより、記録薄膜中のT₀, G₀の酸化が進むことを防ぐバリアとしての働きをするものと考えられる。

Oの添加効果は少量でも認められるが、逆に添加しすぎると信号の記録、消去特性の劣化を起すため、Oの添加量は30at%以下が良い。

速度は記録薄膜中のT₀, G₀, Auの原子数の割合を調整するためにいろいろ変化させた。また薄膜形成は、基材を150rpmで回転しながら行った。

次に上記方法により作成した試験片の黒化特性(消去特性)、白化特性(記録特性)を評価する方法について第3図を参照しながら説明する。

同図において半導体レーザー3を出た波長830nmの光は、第1のレンズ4によって幾何平行光5となり第2のレンズ6で丸く整形された後、第3のレンズ7で再び平行光になり、ハーフミラー8を介して第4のレンズ9で試験片10上に、波長限界約0.8μmの大きさのスポット11に集光され記録が行なわれる。

信号の検出は、試験片10からの反射光をハーフミラー8を介して受け、レンズ12を通して光応答ダイオード13で行なった。

このようにして半導体レーザーを駆動して、試験片上に照射パワーと照射時間のちがう種々のパルスレーザー光を照射することにより、黒化特性、

次に図面を参照しながら本発明をさらに詳しく説明する。

第2図は本発明による光学情報記録部材の断面図である。

1は基板で、PMMMA, ポリカーボネート、塩化ビニール、ポリエステル等の透明な樹脂やガラス等を用いることができる。

2は記録薄膜であり、基板1上に蒸着、スパッタリング等によって形成され、膜組成はオーグジュ電子分光法、誘導結合高周波プラズマ発光分析法、X線マイクロアナリシス法等を用いて決定することができる。

以下、より具体的な例で本発明を詳述する。

記録薄膜の組成制御を容易かつ精度よく行なうために以下の実施例1~4では3源蒸着が可能な電子ビーム蒸着機を用いて、T₀, G₀, Auをそれぞれのソースから基材(アクリル樹脂基板、10×20×1.2mm)上に蒸着し、試験片とした。蒸着は真空度が1×10⁻⁵Torr以下で行ない、薄膜の厚さは約1200Åとした。各ソースからの蒸着

白化特性を知ることができる。

黒化特性の評価には、照射パワーを比較的小さく例えば1mW/μm²程度のパワー密度に固定し、照射時間を変えて黒化開始の照射時間を測定する方法を適用し、白化特性の評価には、記録部材をあらかじめ黒化しておき、照射時間を例えば500000程度に固定し、白化に必要な照射光パワーを測定する方法を適用する。

作成した試験片を上記評価方法を用いて評価した結果を以下に示す。

実施例1

評価材料組成としてT₀とG₀の原子数比が85:15となるように組成制御を行ない、同時にこのT₀85G₀15とAuの比を様々な変化させて複数の試験用記録部材を作成した。

第4図はT₀85G₀15に保ちながらAuの添加量を増化させてゆき、1mW/μm²のパワーで照射したときの黒化開始に要する照射時間の変化を示したものである。この図よりAuを添加することによって黒化開始の照射時間は大幅に短縮され、かつ反射率変化R/R₀も大きくなることがわかる。Auを添加しない場合、T₀85G₀15は1mW/μm²、

10 μsec の照射では全く黒化しなかったが、Au の添加量が、10 at% 程度で既に十分な効果が得られ、逆に、60 at% を越えるあたりから反射率の変化量が急激に低下するのが認められる。これは反射率変化をもたらす記録薄膜中の T₀ の量が減少するためと考えられる。

第4図bは、例えば1 mW/ μm^2 のパワー15 μsec 照射して十分に黒化した部分に、照射時間を60 μsec として照射パワーを変化して照射したときの白化開始に要する照射パワーの違いを示している。これから、T_{0.85}G_{0.15} にAu を添加することによって白化開始に要する照射パワーは増大するものの、Au の添加量が60 at% 以下であれば白化に必要な照射パワーは実用上問題にならないことがわかる。

この2つの図からT_{0.85}G_{0.15} にAu を10~60 at% 添加することによって記録特性をそこなく、消去速度を大幅に改善することができることがわかる。

実施例2

このT_{0.75}Au_{0.25} とG₀ の比を様々に変化させて複数の試験用記録部材を作成した。T_{0.75}Au_{0.25} は作成時には室温では結晶であるのに対し、G₀ を3 at% 添加するだけで室温でアモルファスで安定となった。

第5図aはT_{0.75}Au_{0.25} に保ちながらG₀ の添加量を増加させてゆき、1 mW/ μm^2 のパワーで照射したときの黒化開始に要する照射時間の変化を示したものである。

この図よりT_{0.75}Au_{0.25} へのG₀ の添加量を増加していくことによって黒化開始の照射時間は徐々に長くなり、G₀ の添加量が23 at% をこえるあたりから急激に黒化速度が遅くなる、すなわち消去速度が実用的でなくなる。

第5図bは、例えば1 mW/ μm^2 のパワーで15 μsec 照射して十分に黒化した部分に、照射時間を60 μsec として照射パワーを変化して照射したときの白化開始に要する照射パワーの変化を示している。これからT_{0.75}Au_{0.25} にG₀ を添加することで白化開始に要する照射パワーは減少する

評価材料組成としてT₀ とG₀ の原子数比が67:33となるように組成制御を行ない、同時にこのT_{0.67}G_{0.33} とAu の比を様々に変化させて複数の試験用記録部材を作成した。

第6図はT_{0.67}G_{0.33} に保ちながらAu の添加量を増加させてゆき、1 mW/ μm^2 のパワーで照射したときの黒化開始に要する照射時間の変化を示したものである。この図よりAu を添加することによって、10 μsec の照射では全く黒化しないT_{0.67}G_{0.33} が黒化するようになるのが認められ、黒化開始に要する照射時間は短縮されるのがわかるが、その程度は小さく実用的でない。

これはT_{0.67}G_{0.33} はアモルファスとして非常に安定なT_{0.2}G₀ となる組成であり、アモルファスとして安定でありすぎるためAu を添加してもその添加効果が十分に得られないためと考えられる。

実施例3

評価材料組成としてT₀ とAu の原子数比が75:25となるように組成制御を行ない、同時

ことがわかり、G₀ の添加量が5 at% 以上であれば十分な記録感度が得られることがわかる。

この2つの図からT_{0.75}Au_{0.25} にG₀ を5~23 at% 添加することによって記録特性、消去特性ともに良好な記録薄膜を得ることができることがわかる。

実施例4

評価材料組成としてT₀ とAu の原子数比が50:50となるように組成制御を行ない、同時にこのT_{0.50}Au_{0.50} とG₀ の比を様々に変化させて複数の試験用記録部材を作成した。

T_{0.50}Au_{0.50} は作成時には室温では結晶であるのに対し、G₀ を3 at% 添加するだけで室温でもアモルファスで安定となった。

第7図aはT_{0.50}Au_{0.50} に保ちながらG₀ の添加量を増加させてゆき、1 mW/ μm^2 のパワーで照射したときの黒化開始に要する照射時間の変化を示したものである。

この図よりT_{0.50}Au_{0.50} へのG₀ の添加量を増加していくことによって黒化開始の照射時間は徐

徐に長くなり、 G_0 の添加量が $1.7 \text{ at}\%$ をこえるあたりから急激に黒化速度が遅くなる、すなわら除去速度が実用的でなくなる。

第7図bは、例えば $1 \text{ mW}/\mu\text{m}^2$ のパワーで $1.5 \mu\text{sec}$ 照射して十分に黒化した部分に、照射時間を $50 \mu\text{sec}$ として照射パワーを変化して照射したときの白化開始に要する照射パワーの変化を示している。これから $T_{0.50}Au_{50}$ に G_0 を添加することで白化開始に要する照射パワーは減少するのがわかり、 G_0 の添加量が $5 \text{ at}\%$ 以上であれば十分な記録感度を得られることがわかる。

この2つの図から $T_{0.50}Au_{50}$ に G_0 を $5 \sim 1.7 \text{ at}\%$ 添加することによって記録特性、消去特性ともに良好な記録薄膜を得ることができることがわかる。

以上の実施例1~4によって、 T_0, G_0, Au を必須元素とし、かつ各元素の原子数の割合が第1図のA, B, C, Dで囲まれた範囲内を満たす記録薄膜は、記録特性、消去特性ともに良好な光学情報記録部材を提供することができるとわか

ならずとも観察され、添加量が多ければ多いほど耐湿性が向上するのがわかる。

次に上記記録部材における黒化特性および白化特性をそれぞれ第8図bおよび第8図cに示す。

第8図aは $T_{0.50}G_{0.10}Au_{25}$ に保ちながらOの添加量を増化させてゆき、 $1 \text{ mW}/\mu\text{m}^2$ で照射したときの黒化開始に要する時間の変化を示したものである。この図よりOの添加量を増化していくことにより黒化開始の照射時間は徐々に長くなりかつ、反射率変化 R/R_0 も若干減少することがわかる。これは T_0O_2 のバリアによって T_0 が結晶化しにくくなっているとともに、 T_0O_2 の増加によって T_0 の相対量が減少していることに起因しているものと考えられる。しかし、Oの添加量が $30 \text{ at}\%$ 以下ならば十分な黒化速度が得られ実用上問題とならないと考えられる。

第8図bは、例えば $1 \text{ mW}/\mu\text{m}^2$ のパワーで $1.5 \mu\text{sec}$ 照射して十分に黒化した部分に照射時間を $50 \mu\text{sec}$ として照射パワーを変化して照射したときの、白化開始に要する照射パワーの変化を示

る。

実施例5

評価材料組成として T_0 と G_0 と Au の原子数比が $85:10:25$ となるように組成制御を行ない、同時にこの $T_{0.85}G_{0.10}Au_{25}$ とOの比を様々に変化させて複数個の試験用記録部材を作成した。この場合の記録薄膜の作成方法は4元素蒸着が可能な電子ビーム蒸着機を使用し、それぞれのソースから T_0, T_0O_2, G_0, Au を蒸着するものであり、Oは T_0O_2 として薄膜中に添加した。他の蒸着条件は前述の実施例と同様である。

このようにして得られた記録部材を $50^\circ\text{C}, 60\% \text{ RH}$ の恒温恒湿槽内に放置し、 830 nm の光での透過率変化により耐湿特性を求めた。その結果を第8図cに示す。この図より、 $T_{0.85}G_{0.10}Au_{25}$ 中へOを添加することにより透過率の変化量が小さくなり、耐湿性が向上することがわかる。これは T_0O_2 が水蒸気の存在下で T_0 や G_0 が酸化されるのを防ぐ、いわばバリアの働きをしているものと考えられる。この効果はOの添加量が $3 \text{ at}\%$

している。これから $T_{0.85}G_{0.10}Au_{25}$ にOを添加しても、白化開始に要する照射パワーはほとんど変化せず、白化特性にはほとんど影響しないことがわかる。

以上より、 T_0-G_0-Au 記録薄膜の耐湿性向上にはOの添加が有効であり、特にOの添加量が $30 \text{ at}\%$ 以下であれば、黒化特性、白化特性ともに良好に保ちながら耐湿性を向上させることができることがわかる。

実施例6

基材として $1.2t \times 200\phi$ のアクリル樹脂基材を用い、記録薄膜として $T_{0.80}G_{0.20}$ 薄膜および $T_{0.80}G_{0.20}$ に Au を $30 \text{ at}\%$ 添加した薄膜すなわち $T_{0.80}G_{0.14}Au_{30}$ 薄膜を形成して2種類の光ディスクを試作し、特願昭58-58158号記載の方法により信号の記録、消去を行なった。

各記録薄膜の形成方法は実施例1と同様である。

これら2種類の光ディスクを用いて、記録パワー、消去パワーをそれぞれ $8 \text{ mW}, 15 \text{ mW}$ とし、消去レーザビーム長は半値幅で約 $1 \times 15 \mu\text{m}$ として

白化記録、黒化消去を行なったところ、 $T_{0.6}Ge_{0.4}Au_{30}$ 薄膜を有するディスクでは単一周波数2MHz、ディスクの周速7m/sでC/N55dBを得、10万回記録、消去を繰り返した後にもC/Nの劣化はほとんどみられなかった。

一方、 $T_{0.8}Ge_{0.2}O$ 薄膜を有するディスクでは、消去ビームを照射しても全く黒化せず、したがって信号の記録は全く不可能であった。

発明の効果

本発明によるT-Ge-Au記録薄膜を有する光学情報記録部材は、信号の記録部分はアモルファスとして非常に安定でありながら、消去時には高速に結晶化するために消去感度が非常に良好であり、きわめて実用的な、信号の記録、消去が可能な光ディスクを提供することができる。

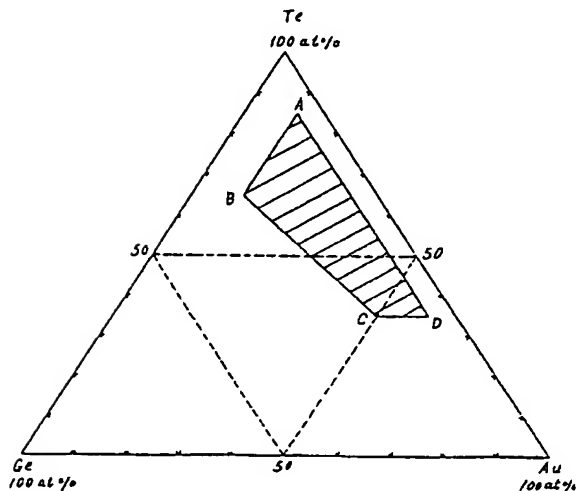
4、図面の簡単な説明

第1図は本発明による光学情報記録部材が有する記録薄膜の組成を示す組成図、第2図は本発明による光学情報記録部材の一実施例の断面図、第3図は本発明による光学情報記録部材の評価装置

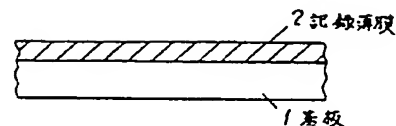
の光学系の概略図、第4図a、b、第5図、第6図a、b、第7図a、b、第8図b、cは光学情報記録部材の黒化特性もしくは白化特性の評価結果を示すグラフ、第9図aは光学情報記録部材の透過率の経時変化を示すグラフである。

代理人の氏名 井理士 中 尾 敏 男 ほか1名

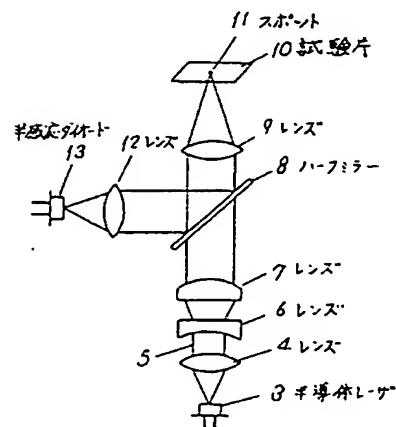
第1図



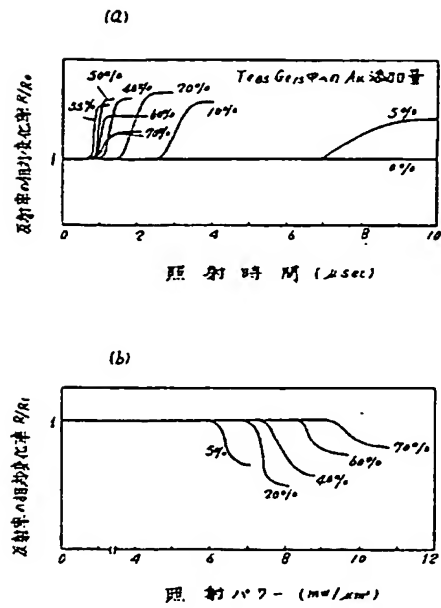
第2図



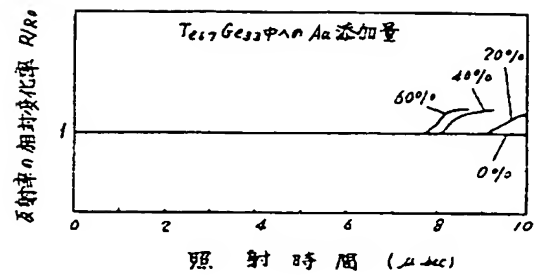
第3図



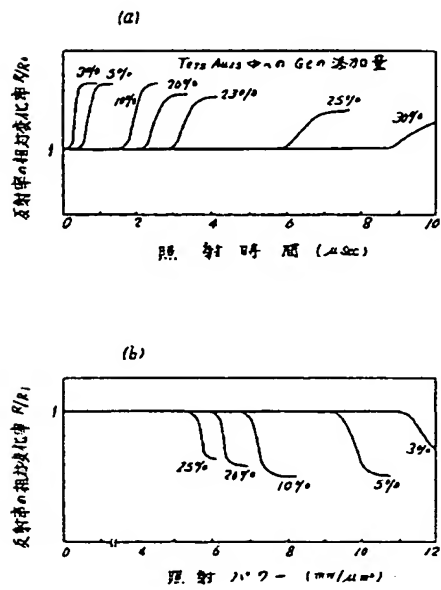
第 4 図



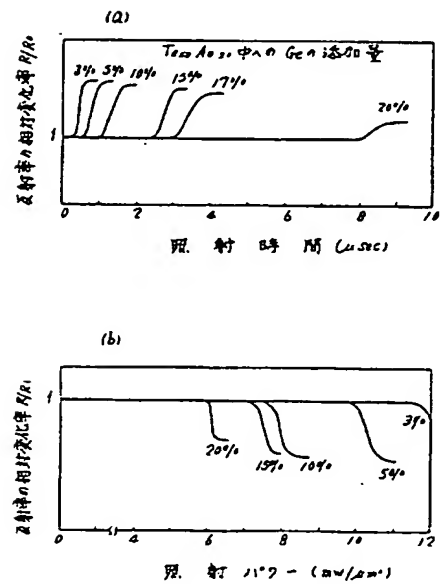
第 5 図



第 6 図



第 7 図



第 8 図

第 8 図

